

個人庭園設計「四季の色と香り」

造園緑化コース

1. はじめに

私が高校の時に体感した庭のある生活の楽しさ、美しさの構想とこの学校での知識と経験を踏まえて、自らの家の庭を設計しようと思う。家族にヒアリングを行い、各自の要望を取り入れたものにしたい。また、長野県という気候を考えながら設計を進めたい。

2. 計画の背景

現在の庭は、土地を買う際に以前の住人が残していったものである。今、知識がある状態でこの庭を見ると、前の人がどのような庭にしたのかよく分からない。ここは思い切って家族の理想に合うような庭を設計しようと思った。

3. 庭のテーマ、コンセプト、家族へヒアリング

テーマ「四季の色と香り」

春夏秋冬で様々な色の花や実、香りを楽しめるような庭。

コンセプト：それぞれの季節に花や実をつける樹木を取り入れ、彩りを増やす。同じ色の花ばかりではなく、様々な色の花を取り入れる。香りのする花を咲かせる花木を取り入れる。

■第1回目のヒアリング

- ・車が3台止められ、雪かきがしやすい駐車場にしてほしい
- ・ブルーベリーとクレマチスは残してほしい
- ・管理が楽な庭
- ・家庭菜園スペースがほしい
- ・倉庫（物置）がほしい

ヒアリングの結果、要望は現実的な意見であった。

4. ゾーニング、計画図、植栽について

ゾーニングは駐車場スペース、庭園スペース、家庭菜園スペースとした。

元々ある室外機、水栓、ポーチ等に注意しつつタイルをはった。タイルにすることで、雪かきがしやすくなる。植物を植える場所との境目には、見切り材を配置した。駐車場は5台分を計画した。駐車場の横に生垣を配置することで、コンクリートばかりの色味の無さを抑えている。目地にリュウノヒゲのような植栽をしようと考えたが、雪かきのしやすさを優先し、何も植えないことにした。キッチンの大きな窓の前にウッドデッキを作り、その前に沓脱石を置くことで、外に出やすくなるよう考えた。出やすくなったことで、家庭菜園スペースに行きやすくなる。残さなければならない樹木と家族に要望された樹木をベースに色がきれいなもの、花が咲くもの、香りがするものを選んだ。残した樹木はアオキ、ナンテン、ブルーベリーである。庭園スペースの南側に空間をあけたのは、枝が隣の敷地へ侵出するのを防ぐためである。また、ポーチ横に花壇を計画した。

5. 家族へプレゼンテーション、修正計画

■プレゼンテーション後のヒアリング

- ・駐車場のひとつを駐輪場にしてほしい
- ・予算削減のためタイルの数を減らしてほしい

この意見を取り込み、修正計画を行った。

駐車場は寸法を変更し、駐車場としても利用できる駐輪場をひとつ計画した。この変更により、物置の寸法を変更した。タイルの数を減らし、曲線に違和感が出ないように修正した。それに伴い、樹木の本数を減らし、全体的に樹木と樹木の間隔をあけて、風通しがよくなるようにした（図-1）。

6. まとめ

高校生までは和風庭園を中心に設計してきたので、洋風庭園を設計するのは初めてであった。長野の気候は雪かきをするという地域事情があるので、どのように設計したら雪かきがしやすいかを考えるきっかけになった。見栄えだけをよくするのではなく、利便性もよくしなければならないと考える。ただ、植栽を詰め込むと、重なり合っ見えなくなる可能性があった。したがって、どのように配置するときれいに見えるかを考え、平面的ではなく、立体的に考えて設計することが大事であった。

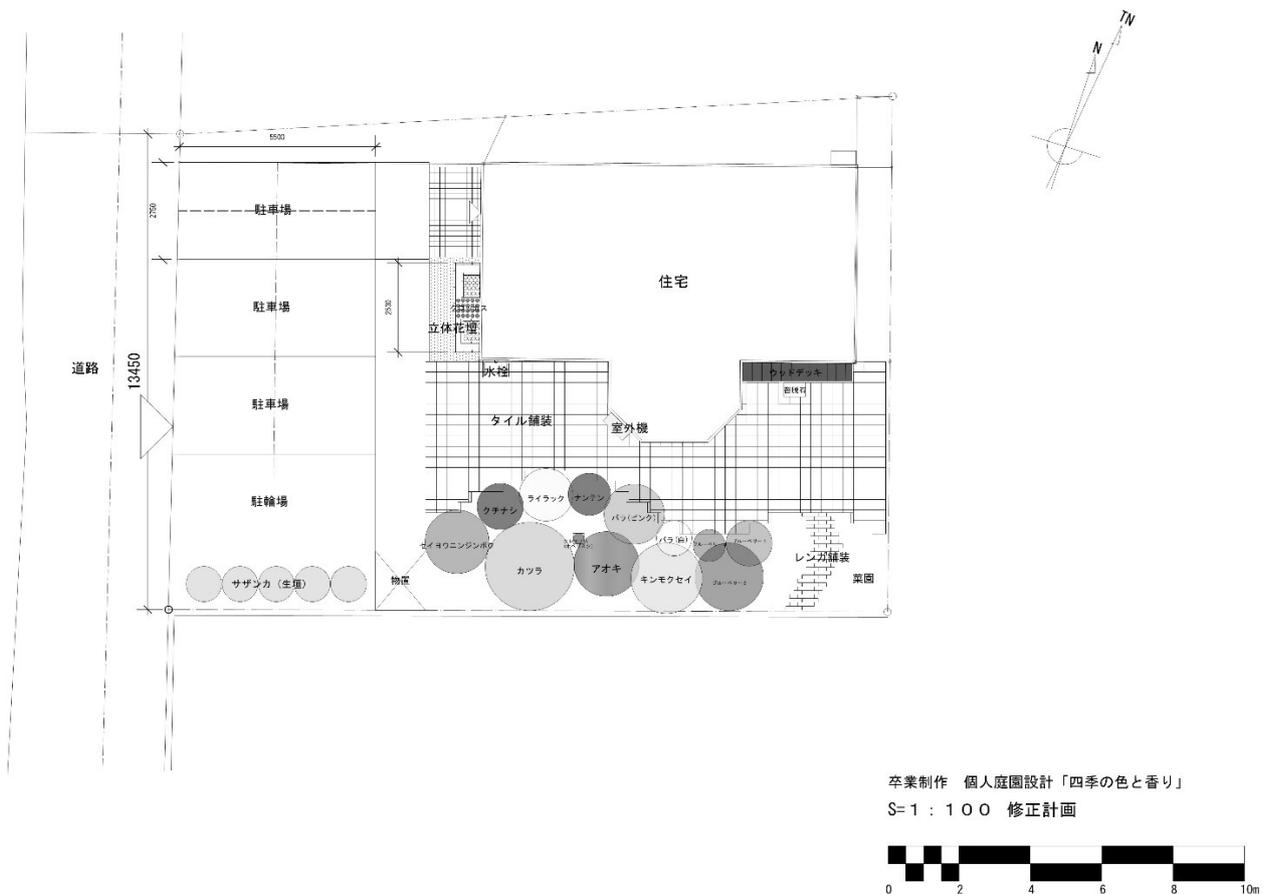


図-1 個人庭園設計「四季の色と香り」